

epTM とモバイル放送, いよいよスタートする 次世代デジタル放送

Next-Generation Digital Broadcasting Starts with epTM and Mobile Broadcasting

日本のテレビチャンネル数は,1980年代の7チャンネル時代から,衛星デジタル放送開始をきっかけに一気にその数を伸ばし,今春始まったCS110°放送を加えて,300チャンネル時代に突入するところまでできています。

この間,日本の人口は横ばい,景気も低落ということで,チャンネル間の視聴率獲得競争は極めて激烈なものとなっております。今後,更に地上波デジタル放送の開始でチャンネル数が増加すると,まさに“チャンネルバトルロイヤル”とも言うべき厳しい戦いに突入することになります。更にこの競争は,ブロードバンド時代を迎えて,次世代携帯電話,ADSL,FTTH,無線LAN事業者などが参入することで,更なるつづし合いの時代に入ると見られています。

ここまで書くと,死屍累々(ししるい)の惨状が目に見えますが,そこはよくしたもので,メディア投資やコンテンツ作りには多大な資金を要すること,そして通信と放送の融合を1社でカバーできる企業は皆無であることから,バトルロイヤルの舞台は,有力企業(それも多くはない)の合従連衡でしかけが作られる方向に向かっています。この新たな放送・通信融合メディアの競争は情報技術競争の極致ですから,この枠組みから漏れた企業は,情報企業として遅れをとることにもなり,水面下では,各社の連携に向けた駆引きが活発化しています。最近,欧州で垂直統合経営を目指したキルヒメディア社の崩壊が話題になっていますが,欧米の力ワザでいっきに独占体制を作るやり方に対し,日本は緻密(ちみつ)な連携構造で極端な勝者も,また敗者も作らない流れが着地点になる方向です。

さて,e-ソリューション社では,従来からの単なる多チャンネル型ではなく,サービス自体が大きな特長を持つメディア開発に戦略を絞り込んできた結果,二つのユニークなメディア事業を立ち上げることを決定しました。そのうち,イーピー(株)は2002年4月に運用を開始し,モバイル放送(株)は2003年12月から放送開始の予定です。前者は,松下電器産業(株)(株)日立製作所ほかの有力企業とのジョイントベンチャーで,CS110°放送波と独自のセットトップボックス(epTMステーション)により双方向性のほか,内蔵ハードディスクの蓄積機能や,ブロードバンド接続機能を持つ高度な情報サービスを実現します。また後者の提供するモバイル放送は,世界最初の携帯端末向け放送サービスを行うもので,次世代携帯電話や新しいPDA,モバイルPCへの情報提供サービスと融合することで,日本の携帯文化の更なる発展にも貢献を目指す意欲的なテーマです。われわれは,この二つの新しい媒体を“時空の制約を超えたメディア”として実現していきます。

今後のe-ソリューション社のメディア&コンテンツ事業にご注目ください。

(注) epは,イーピー(株)が提供するCS110°デジタル放送とインターネットを組み合わせた蓄積型双方向サービスで,同社の商標。



鈴木 修美
SUZUKI Osami